

日本語による
近代ギリシャ文学・語学文献目録 (5)

佐藤 りえこ・橘 孝司

井浦 伊知郎

- (1995) 「現代ギリシア語とアルバニア語の前置詞に関する一考察(2)」
『プロピレア』7, pp. 97.

石岡 精三

- (1996a) 「現代ギリシャ語における Focalization -Wh-Movement と LD (RD)との
関連から一その1」長岡技術科学大学『言語・人文科学論集』10, 31-56.
(1996b) 「現代ギリシャ語における Focalization -Wh-Movement と LD (RD)との
関連から一その2」長岡技術科学大学『言語・人文科学論集』10, 57-82.

伊藤 照夫

- (1995) 「『ツァツォス=セフェリス論争』について -セフェリス『アシネー
の王』との関連から」『プロピレア』7, pp. 11-23.

浮田 三郎

- (1995a) 「現代ギリシア語の教育に関する諺」『プロピレア』7, pp. 39-48.
(1995b) 「日本語と現代ギリシア語の教育に関する諺対照研究」
『プロピレア』7, pp. 98.

梅本 順子

- (1996) 訳：ヤニス・リッツォス「秋の務め」
『エーゲ海学会誌』10, pp. 109-110.
◆Γ. Ρίτσος, *Φθινοπορινό χρέος*. 作家紹介を含む。

櫻片 道枝

(1996) 訳：アレクサンドラ・バパドプルー「おばあちゃん」
『エーゲ海学会誌』10, pp. 98-101.

◆A. Παπαδοπούλου, *Η γιαγιά*. 作家紹介を含む.

川村 二郎

(1980) 訳：イオルゴス・セフェリス「アルゴ号の人々」「今われらの目の前を ...」
『世界の名詩』北欧東欧編（小海永二編）pp. 305-306, 大和書房.

小林 節子

(1996) 訳：コンスタンティーノス・カヴァフィース「イサキ」
『エーゲ海学会誌』10, pp. 105-107.

◆K. Καβάφης, *Ιθάκη*. 作家紹介を含む.

佐藤 りえこ

(1995) 「パパディアマンディスの木のイメージ - 『高貴なる櫛の木の下面』を
素材にして -」『プロピレア』8, pp. 24-38.

(1996a) 「ヨルゴス・セフェリス作『パントウムー浜辺のひとと夜 -』」
『エポス』16, pp.51-62. ◆Γιώργος Σεφέρης, ΠΑΝΤΟΥΜ. 訳・解説を含む.

(1996b) 「シングルウ通り」『エーゲ海学会誌』10, pp. 52-53.

◆セフェリス「シングルウ通り、1930年」部分訳を含む.

篠田 一士

(1957) 『世界の子ども』11、南ヨーロッパ篇（秋田雨雀監修）pp. 181-206, 平凡社
◆ギリシャの子どもの作文19編を所収.

鈴木 敦也

(1985) 訳：ヤンニス・クツォヘラス「ヒロシマ」私家版 ◆Yannis Coutsoheras,
Hiroshima. JAPAN TIMES (1984年5月23日) に関連記事.

(1996) 訳：イオルゴス・セオトカス『アルゴー・魔人』

講談社出版サービスセンター ◆Γιώργος Θεοτοκάς, *Αργώ και το Δαιμόνιο*.
著作一覧、英語版翻訳者のノート、詩人コスチス・パラマスによる読後
感を含む.

橘 孝司

(1996) 「ギリシャ語における空間詞と文法化・格推移」
『ニダバ』25, pp. 67-74.

長 榮一

(1996) 「追悼、エーゲ海の詩人、O.エリティス」『エーゲ海学会誌』10, pp.55-56.
◆エリティス「エーゲ海 III」部分訳を含む。

長嶋 善郎

(1995-6) 「現代ギリシャ語の〈太・厚・広〉を表す形容詞についてのノート」
『言語学林』pp. 67-74, 三省堂.

中井 久夫

(1996a) 訳：リッツォス「敗北の後」『象形文字』84, 8-9.
(1996b) 訳：リッツォス『反復』より（「それらを語ること」「新しい踊り」「アルゴ船の没落」「ペネロペの絶望」）『象形文字』85, 2-5.

納戸 セキコ

(1996) 訳：民話「四個のたまご」
『エーゲ海学会誌』10, pp. 102-104. ◆Τ' αυγά.

芳賀 重徳

(1996) 訳：『アレクサンデル大王の誕生と勝利／ナポリの主席司祭レオ』
近代文藝社 ◆ビザンツ版「アレクサンドロス物語」の解説を含む。

東 千尋

(1996) 訳：ヤニス・リッツォス「廃墟の教会」
『エーゲ海学会誌』10, pp. 108. ◆Γ. Ρίτσος, *Ερημική εκκλησία*.

福田 千津子

(1995) 「現代ギリシャの諺」『世界ことわざ大事典』大修館書店（柴田武、谷川俊太郎、矢川澄子編）

- (1996a) 「現代ギリシャ語」『外国語がわかる』（やわらかアカデミズム「学問がわかる」シリーズ）pp.52-53, 朝日新聞社.
- (1996b) 『集英社世界文学大事典』第1巻, 集英社 ◆「ヴァラオリティス」「ヴェネジス」「ヴルガリス」「ヴレタコス」「エフタリオティス」「エリティス」「エンピリコス」「カスタナキス」「カラガーツイス」「カルヴォス」「カルカヴィツァス」「クセノプロス」の項.
- (1997) 『集英社世界文学大事典』第2巻, 集英社 ◆「コライス」「シケリアノス」「セオトカス」「セフェリス」「ソロモス」の項.

三浦 正道

- (1996) 『オリーブの木 パラマス詩抄』舷燈社 ◆「オリーブの木」「ニケ」「約束の指輪」「やさしくおだやかな二つの小さな眼」「どこであったかぼくは見つけた」「欲しかった水」「ゆるぎなき大地」「冬の夜明け」「妻に」「オリンピック賛歌」「窓に向かいあう」「ただひとり」「パトラス」「ミソロンギ」「アテネ」「ギリシャ」「出現」「神々の死」「帰宅」「洪水」「気まぐれと本心」「農民の家」「ジプシーの娘」「提琴奏者バタリア頌」「一つの生活」「花嫁」「苦悩」「アナトリア」「犬とジャッカルと鶏」「鬼火」「ポプラの木」「バラよ」「ぼくの内部に口をあけた」「生まれざる歌のかずかず」「ジャスミンの花」「かわいいアテネ娘」「二つの眼」「喜びにあふれる美しい新月」「それは」「糸杉」パラマス略年譜、アンゲロス・シケリアノス「パラマス」、参考文献を含む。Κωστής Παλαμάς, Ανθολογία.

森安 達也

- (1996b/97) 『集英社世界文学大事典』第1巻, 集英社 ◆「カヴァフィス」「カザンザキス」の項.

山形 治江

- (1996) 「現代ギリシャにおける古代劇上演小史」
『エーゲ海学会誌』10, pp. 35-48.

山口 喜雄

- (1996) 訳：A・パパディアマンディス「キリストのパン・父の居ない家」

『エーゲ海学会誌』 10, pp. 90-97.

◆Α. Παπαδιαμάνδης, *Χριστόψομο, Πατέρα στο σπίτι*. 作家紹介を含む.

吉田 行雄

(1996) 「ギリシアさまざま」 『エーゲ海学会誌』 10, pp. 67-75.